

# 平成26年度 三条市決算 状況

## ◇平成26年度一般会計の決算状況

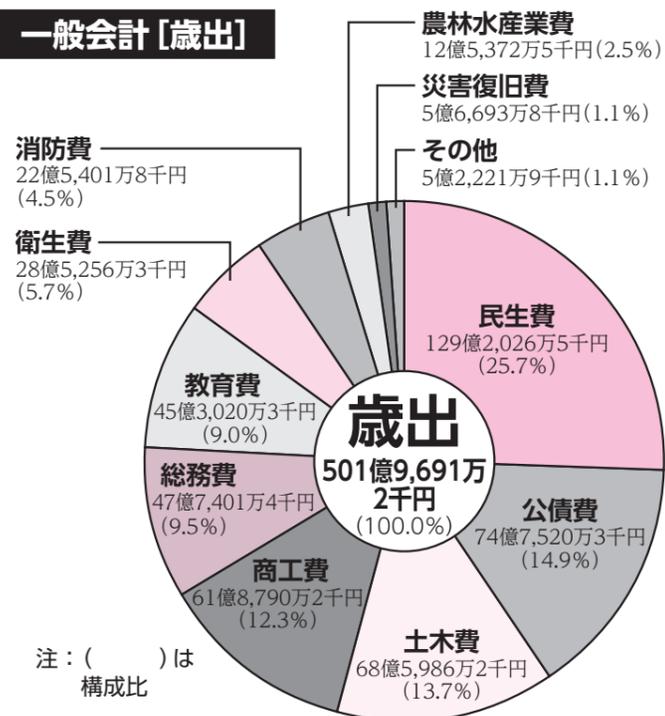
一般会計の決算収支は、歳入総額517億497万4千円、歳出総額501億9,691万2千円となり、歳入歳出差引額は、15億806万2千円となりました。

財務課 財政係 ☎内線744

## ◇主な建設事業費（特別会計を含む）

- 新保裏館線道路改築事業  
..... 10億7,153万4千円
- 道路改良事業  
..... 9億2,152万9千円
- 緊急内水対策事業  
..... 8億5,511万9千円
- 消防施設等整備事業  
..... 6億8,832万円
- 小中学校施設整備事業  
..... 5億8,441万7千円
- ものづくり拠点施設整備事業  
..... 4億4,298万4千円
- 下水道事業  
..... 9億5,637万4千円

## 一般会計 [歳出]



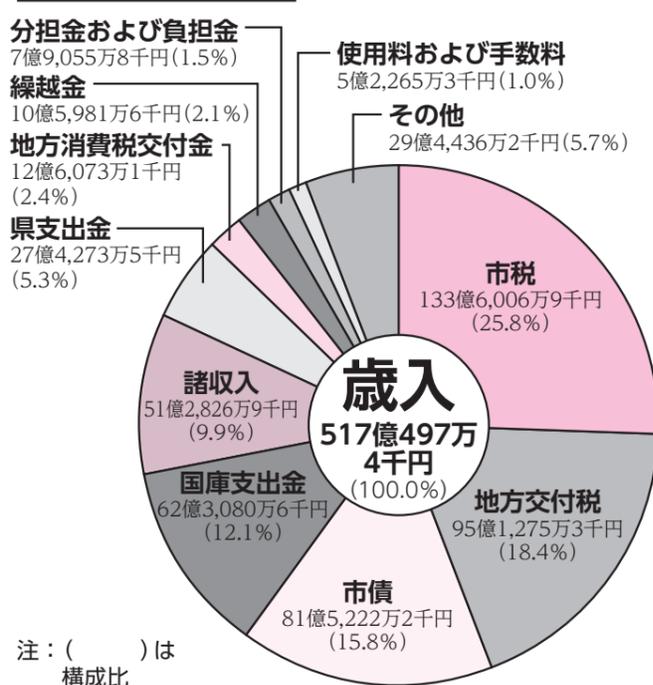
## ◇市民一人当たりの決算額と主な事業

民生費	公債費	土木費	商工費
<b>12万7,495円</b> 高齢者、障がい者、児童の福祉推進などに ・保育サービスの充実 ・児童手当の給付 ・障がい者自立支援給付	<b>7万3,764円</b> 公共施設整備のために借りたお金の返済に 	<b>6万7,692円</b> 道路、公園などの整備推進などに ・道路の改良、維持 ・新保裏館線の整備 ・市街地の浸水被害軽減対策	<b>6万1,061円</b> 産業や観光の振興などに ・中小企業への制度融資 ・ものづくり拠点施設の整備 ・交流拠点施設の整備
総務費	教育費	衛生費	その他
<b>4万7,109円</b> まちづくり推進、自治振興などに ・地域公共交通の運行 ・全天候型広場の整備 ・中心市街地の活性化	<b>4万4,703円</b> 学校の管理運営や整備などに ・小中一貫教育の推進 ・さんじょう一番星育成事業 ・特別支援教育の充実 	<b>2万8,149円</b> 市民の健康管理やごみ、し尿の処理などに ・家庭ごみなどの収集・処理 ・予防接種の実施 ・健康診査の実施	<b>4万5,361円</b> 農業の振興や消防、議会運営などに ・災害の対策・復旧 ・消防施設の整備 ・農業の担い手確保・育成

## ◇各会計の決算状況

会計名	収入 済 額	支出 済 額	差 額
一 般 会 計	517億497万4千円	501億9,691万2千円	15億806万2千円
特 別 会 計			
国民健康保険事業	96億4,542万円	99億7,931万8千円	△3億3,389万8千円
後期高齢者医療	8億7,485万2千円	8億7,236万1千円	249万1千円
介護保険事業	85億8,682万8千円	82億5,308万6千円	3億3,374万2千円
農業集落排水事業	6億6,577万8千円	6億6,573万8千円	4万円
勤労者福祉共済事業	2,245万6千円	1,101万4千円	1,144万2千円
公共下水道事業	30億2,792万8千円	30億2,326万4千円	466万4千円
合 計	745億2,823万6千円	730億169万3千円	15億2,654万3千円

## 一般会計 [歳入]



## ◇借入金などの状況

市債とは、主に建設事業を行うために、国や金融機関などから借入れする資金のことです。これは公債費として長期間にわたって返済していきます。債務負担行為とは、数年度にわたる建設工事、土地の購入、翌年度以降の経費支出など、将来の財政支出を約束することです。これは、定められた年度において必ず歳出予算に計上されます。

会計名等	26年度末現在高	市民一人当たり 負担 額
市 一 般 会 計	708億1,081万5千円	
市 特 別 会 計	251億2,003万6千円	
<b>三 条 市 計</b>	<b>959億3,085万1千円</b>	<b>94万6,633円</b>
債 一 部 事 務 組 合 (三条市負担分)	153億7,322万2千円	15万1,701円
<b>合 計</b>	<b>1,113億407万3千円</b>	<b>109万8,334円</b>
債務負担行為 一 般 会 計	6億7,962万円	6,706円

## ◇資金不足比率 (単位: %)

特別会計の 称	三 条 市	早期に自主的な 経営の健全化が 必要となる基準
農業集落排水 事業特別会計	-	20.0
公共下水道 事業特別会計	-	20.0
水道事業会計	-	20.0

\* 資金不足額がない場合は「-」で表示

● **連結実質赤字比率**  
市全体の財政運営の深刻度を示す比率。全ての会計を合算して赤字の程度を指標化したもの。

● **実質公債費比率**  
資金繰りの危険度を示す比率。借入金の返済額やこれに準じる負担額を指標化したもの。

● **将来負担比率**  
将来財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示す比率。一般会計の借入金や将来支払う可能性のある負担などの程度を指標化したもの。

● **資金不足比率**  
経営状況の深刻度を示す比率。公営企業の資金不足を料金収入の規模と比較して指標化したもの。

◇ **各指標の説明**  
● **実質赤字比率**  
財政運営の深刻度を示す比率。福祉、教育などを行う一般会計の赤字の程度を指標化したもの。

## ◇健全化判断比率 (平成26年度決算) (単位: %)

指 標	三 条 市	早期に自主的な 財政の健全化が 必要となる基準	国の管理・指導を受 けた財政の再生が 必要となる基準
実質赤字率	-	12.09	20.00
連結実質赤字率	-	17.09	30.00
実質公債費率	14.4	25.0	35.0
将来負担率	131.3	350.0	

\* 実質赤字額、連結実質赤字額がない場合は「-」で表示

◇ **健全化判断比率**  
実質的な赤字や第三セクターなどを含めた将来負担などを表す指標です。  
4つの「健全化判断比率」と公営企業の「資金不足比率」が、基準より悪化すると、財政の健全化が必要になります。  
\*「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づく公表